

第1章 文京区の景観の特性

(第1回検討委員会 参考資料第1号 p.4~53

「文京区の景観特性の特徴と問題点」を一部修正)

文京区は、台地と低地が織りなす起伏に富んだ地形を有し、寺社や史跡など歴史的な資産も豊富に点在しています。また、大名屋敷庭園として整備された小石川後樂園や六義園などの大規模な緑のまとまりや下町情緒が残るまちのまとまりなど、多様な景観特性が相まって「文京区らしい景観」を構成しています。

本章では、このような「文京区らしい景観」を構成する要素や場所を「景観特性」として捉え、「地形」「歴史・文化」「まちのまとまり」「骨格」「拠点」「緑」「活動」の7つに整理し、それぞれの特徴と課題を明らかにします。

文京区の景観特性	
(1) 地形	起伏に富んだ地形を象徴する坂道
(2) 歴史・文化	地域の景観の基礎となる歴史的資産 まちを彩る季節の風物
(3) まちのまとまり	個性溢れるまちのまとまり
(4) 骨格	都市の骨格をつくる軸
(5) 拠点	特徴的なまちかど 拠点
(6) 緑	大規模な緑のまとまり 憩いの空間となる公園
(7) 活動	人の活動

(第1回検討委員会 参考資料第1号 p.3を基に作成)

(1) 地形

起伏に富んだ地形を象徴する坂道

文京区は台地と低地が複雑に入り組む起伏に富んだ地形を有しています。そのため区内には多くの坂道が存在します。勾配の緩急や延長、幅員、形状などによって多様な景観が見られ、区民の生活と密接に結びついてきました。

坂道のある風景や坂道を移動するにつれて変化する景色、坂道からの眺望などは、視覚的にも地形の豊かさが感じられます。

<高低差によって変化する景観>

坂道では高低差によって景色が大きく変化します。坂道を見上げる場合と見下ろす場合では、異なる景観が見られます。坂下から見上げる場合、台地の低層・中層住宅地を望む場合が多く、坂道を上るにしがたい視界が開けます。また、坂上から見下ろす場合、低地の幹線道路方面を望む場合が多く、遠景には高層建築物が幾重にも重なって見えるなど、見る場所によって異なる景観を楽しませてくれます。



坂上から見下ろす景観
(梨木坂 本郷4、5丁目)

<歴史を感じさせる建物、斜面や擁壁の緑>

沿道の建物や擁壁、敷地内の緑、路面の仕上げなどは、坂道の景観を構成する重要な要素です。季節を感じられる緑豊かな坂道では、心が安らぐ景観が見られます。また、緑化が施された擁壁や石積み擁壁、歴史的な建物や史跡などがある坂道では、歴史や懐かしさを感じさせる景観が見られます。

(意見交換会での意見を反映)



石積みの擁壁
(藪下通り脇の坂道 千駄木1丁目)

<アイストップ>

坂道では、視線の先に見えるものにより受ける印象が大きく異なります。例えば豊かな緑や東京タワー、富士山といったランドマークとなる建造物などが見える場合、それらがアイストップとなり、坂道の景観をより印象深いものとしています。近年では、スカイツリーが見える坂道もあります。

(意見交換会での意見を反映)



アイストップに緑がある
(善光寺坂 小石川2丁目)

景観形成上の課題

< 圧迫感を感じさせる擁壁 >

- 坂道に面する敷地では、擁壁を設ける場合が多く見られます。急な勾配の坂道であれば高い擁壁が、大規模な敷地では横方向に長大な擁壁が現れる場合があります。坂道では、こうした擁壁が圧迫感を感じさせることのないような配慮が必要です。

< 路面の色彩 >

- 坂道では、安全性に配慮して路面を塗装している箇所がありますが、周辺のまち並みを阻害しないような配慮が必要になる場合があります。

(2) 歴史・文化

地域の景観の基礎となる歴史的資産

区内には、六義園や小石川後樂園など、国の重要文化財として指定されている日本でも有数の大名庭園が残されています。また、江戸時代から昭和初期までの歴史的な建築物、由緒ある寺社仏閣や邸宅、商家など、区民の身近なところにも、歴史的な佇まいを残す建物等が数多く分布しています。

こうした地域の歴史を象徴する資産は、まちの歴史を感じさせるだけでなく、地域の個性を生かした景観づくりの基礎となる重要な価値を持っています。

< 歴史を象徴する大名庭園や寺社仏閣等の景観 >

六義園や小石川後樂園を始め、東京大学の赤門として親しまれている旧加賀屋敷御守殿門や護国寺、吉祥寺、伝通院、根津神社、湯島天満宮など区内には、文化財としての価値が高く評価されている建造物や歴史を感じさせる佇まいを持つ寺社仏閣も数多く存在します。それらは、区の歴史の深さを象徴するとともに、地域の景観のシンボリックな存在となっています。

(意見交換会での意見を反映)



本郷通りのシンボルとなっている東京大学の赤門

< 生活の中に息づく歴史の面影 >

住宅地の一角に明治期から昭和初期にかけて建てられた瀟洒な邸宅が残されていたり、商店街の中に歴史ある木造の建物が残されていたりと、区民生活の身近な場所に、多くの歴史の面影を残しています。



菊坂にある旧伊勢屋質店の土蔵(国登録有形文化財)

<門、塀などがつくるまち並み>

建物だけでなく、通り沿いの特徴的な門や塀なども、まち並み景観をつくりだす重要な要素のひとつであり、歴史の風格を感じることができます。



重厚感のある門柱（芦葉家邸宅）

<歴史的建造物の敷地内の緑>

護国寺や吉祥寺などの大規模な寺院の敷地内には、丁寧に管理され、季節を感じさせる豊かな樹木が多く残されており、遠くからも視認できる緑のまとまりが形成されています。

また、邸宅等の小規模な歴史的建造物が建つ敷地には、高木が残っている場合が多く、敷地内の緑がまち並みに潤いを与えています。



敷地内の緑がまち並みに潤いを与えている（橋本家住宅）

（意見交換会での意見を反映）

景観形成上の課題

<配慮を欠いた周辺建物>

- 歴史的な資産に隣接した建物の中には、配管や室外機などの設備を歴史的な資産に向けて設置しているものがあり、歴史的な資産から周辺を見渡した際の景観に配慮することが求められます。

<歴史的建造物の佇まいと調和しない意匠の建物>

- 歴史的な資産の周辺では、大規模な建物の無表情で長大な壁面によって圧迫感を感じさせないような工夫が求められます。

<屋外広告物>

- 歴史的な資産の敷地周辺で、けばけばしい色彩の広告物が見られる箇所があり、歴史的な資産との調和に配慮することが求められます。

まちを彩る季節の風物

文京区では「文京花の五大まつり」をはじめ、季節に合わせて四季折々の花や紅葉などを楽しむ様々なイベントが行われています。開催期間中は区民だけではなく、広域から多くの人が集まり、その季節ならではの風景を楽しんでいます。

<四季折々の花がつくる風景>

播磨坂の「さくらまつり」を始め、根津神社の「つつじまつり」、白山神社の「あじさいまつり」、湯島天満宮の「菊まつり」「梅まつり」は、「文京花の五大まつり」として親しまれ、四季折々の花がつくる潤いある景観を見ることができます。



さくらまつり（播磨坂）



つつじまつり（根津神社）



あじさいまつり（白山神社）



菊まつり（湯島天満宮）



梅まつり（湯島天満宮）

<お祭りがつくる風景>

神社等で行われるお祭りの風景は、まちの歴史や文化を物語る大切な景観の要素です。

（意見交換会での意見を反映）



根津神社の例大祭

<街路樹>

区の木としても指定されているイチヨウを始めとして、幹線道路沿いには、街路樹が多く植えられています。春から夏にかけては青々と茂り、秋には黄色に色付くなど、季節によって変化する街路景観を演出しています。



目白通りのイチヨウ並木



本郷通りのイチヨウ並木

景観形成上の課題

<配慮を欠いた建物>

- ・祭りの会場となる寺社等の敷地の周辺に立地し、草花の背景として見える建物については、配管や室外機などの設備がまつりの会場から見えないよう、配慮が求められます。

(3) まちのまとめり

個性溢れるまちのまとめり

区内には、江戸時代の町割りを継承した良好な低層住宅地や、庶民のまちとして親しまれてきた下町、印刷・製本関連の事業所が集積するまちなどがあります。こうした特徴的なまちのまとめりが、個性溢れるまち並み景観をつくりだしています。

歴史・文化に培われた風格ある住宅地

江戸時代の町割りを継承した高台の良好な住宅地である小日向、明治時代の阿部家により開発された西片町、大正時代の岩崎家により開発された大和郷など、計画的に開発された住宅地が、当時のまちの構成のまま継承されている低層住宅地が幾つも見られます。また本郷や湯島など歴史ある建物が残る地域も見られます。そうした住宅地では、歴史・文化に培われた風格のある景観をつくっています。

(意見交換会での意見を反映)

<江戸・明治の町割りを継承した道路・街区構成>

小日向は、細い路地に囲まれた短冊状の街区など、江戸時代末期の町割りを継承しており、全体的に道路幅員が狭く、T字路や屈曲した道路が多い独特の空間が形成されています。また、西片は、比較的幅員の広い道路に囲まれた街区が形成されており、それぞれに個性あるまち並みが歴史性と風格を感じさせています。



緩やかな曲線状の道路と沿道の緑豊かな戸建住宅（小日向）

<歴史の趣を感じさせる住宅地>

本郷や湯島など、区内には、江戸から昭和初期にかけての歴史の深い建築物が見られる住宅地があります。そうした住宅地は、地域の歴史や文化を感じることができるとともに、歴史に培われた趣のある景観が見られます。

(意見交換会での意見を反映)



歴史ある建物が残る景観（本郷）

<緑豊かな住宅地景観>

樹木や生垣を外構に施している住宅が多いため、緑豊かで潤いのある住宅地の景観が形成されています。小日向は敷地規模が大きく、建物自体は奥に、道路側には緑を配置している住宅が多く、全体としてゆとりと豊かさを醸し出しています。



石積みの塀と豊かな植栽を施した集合住宅（小日向）

<表情のある外壁や外構>

敷地規模が大きくないため、前庭や豊かな樹木を設置するスペースがない場合でも、住宅の外壁の意匠・素材や外構の工夫により、まち並みに表情を与えているものが見られます。



外壁の凹凸や自然素材を用いたルーバーなどの外構の工夫が見られる低層集合住宅（小日向）

景観形成上の課題

<圧迫感や閉鎖的な印象を与える塀>

- 住宅地では、表情のない高いコンクリート塀や老朽化した単調なブロック塀などによって、圧迫感のある閉鎖的な印象を与えないような配慮が求められます。

<駐車場によりまち並みの連続性が分断>

- 賃貸駐車場や戸建て住宅の駐車スペースに、植栽等による目隠しなどの工夫などが見られず、自動車が道路に面してむき出しになっている箇所があります。低層住宅や樹木の連なりによるまち並みの連続性が分断されないような配慮が求められます。

<多様な形態意匠の住宅が立地>

- 戸建て住宅や低層集合住宅、和風や洋風、新しいものや古いもの、歴史性を感じるものからハウスメーカーの建売住宅などが多種多様な建物が共存しているため、住宅の意匠・素材・色彩などの統一感のあるまち並みが形成されていない状況が見られます。

江戸時代の町割りを引き継ぐ下町

根津神社の門前町として栄えた根津や文化人ゆかりの地として名高い千駄木などは、江戸時代から「庶民のまち」として賑わいのあった下町で、表通り・横丁・裏通り・路地といったまち並みを構成しています。中でも路地は人々の生活空間であり、下町らしさを象徴しています。

<路地と木造建物に残る下町風情>

路地と木造住宅の境界に塀は少なく、敷地内に植えられた緑や鉢植えなどによる緑が溢れ出しており、路地と建物の親密な関係が生む、下町独特の生活感溢れる景観を見ることができます。



路地と住宅が織り成す
下町の景観（根津）



敷地境界を越えて緑が溢れ出している
(根津)

景観形成上の課題

<下町らしい景観の保全>

- 根津や千駄木では、不忍通り沿道やその周辺において、商業系の用途地域に指定されている地域が多くあります。そのため、共同化等による大規模建築物の建設や、新しい戸建て住宅が建設される場合であっても、下町らしさが失われることのないよう配慮が求められます。

<維持管理の行き届かない老朽住宅>

- 木造住宅は、下町の風情を感じさせる要素のひとつですが、維持管理が行き届かず、老朽化が進んでいるものも見られます。良好なまち並み景観を形成するためには、建物の適切な維持管理が求められます。

<路地空間のブロック塀>

- 建物によっては、道路と敷地の境界にブロック塀が設置されている箇所があります。幅員が狭い路地空間では、ブロック塀などの無機質で単調な塀が連続し、圧迫感や閉鎖的な印象を与えないような工夫が必要です。

地場産業が集積したまち

千川通り周辺や水道周辺には印刷・製本関連の事業所が集積したまち並みが見られます。これらの事業所が集積した地域では、地場産業そのものが地域の個性的な景観となっています。

<地場産業がつくる景観>

通りからも作業が行われている様子が見られ、文京区を代表する産業が醸し出す特色ある景観が広がっています。



地場産業の集積（千石）



働く様子も景観のひとつとなっている（白山）

景観形成上の課題

<道路利用者への配慮>

- 地区特有の個性的な景観が形成されている反面、道路上に作業資材等が置かれるなど、道路利用者への配慮も必要です。

<調和を欠いた建物立地>

- 比較的小規模な印刷・製本関連の事業所が集積したまち並みの中に、集合住宅などの規模の大きな建物が建つ場合には、地場産業のまち並みの連続性に配慮するとともに、周辺に対して圧迫感を感じさせない工夫が必要です。

寺社が集まる寺町

本駒込、向丘、白山それぞれの地区の一部は、明暦の大火後に中心部から集団移転した寺社を中心に、寺町として発展してきました。寺社には緑が多く、閑静で落ち着いた暮らしやすい環境が形成されています。

(意見交換会での意見を反映)

<奥行き感のある佇まい>

寺町ならではの景観として、山門や鳥居から参道が延び、その先に本堂等があり、奥行き感のある落ち着いた佇まいが残されています。



奥行き感のある入口
(左：天祖神社、右：常徳寺)

<重厚な寺院建物>

鳥居、山門や本堂など、歴史を感じさせる重厚な建造物が随所に見られ、身近に歴史・文化に触れることができます。



重厚な門構え（吉祥寺）



本堂のどっしりとした瓦屋根
（浩妙寺）

<緑の創出>

寺院の敷地内にある年輪を重ねた大きな樹木は、周辺からも見ることができ、地域やまち並みに潤いを与えています。



周辺からも見ることもできる寺院の緑
（左：瑞泰寺、右：海蔵寺）

景観上の課題

<閉鎖的な外構>

- 寺院は周辺に比べて敷地が大きいので、設けられる塀も長く高いものになっています。万年塀やブロック塀のような無機質な壁面が連続する場所では、閉鎖的で圧迫感がある単調な空間とならないよう工夫が求められます。

<配慮を欠いた周辺建物>

- 幹線道路沿いにある寺院では、隣接する高層の建物が寺院に背を向けた配置となっているものや、配管設備や非常階段がむき出しになっていたり、開口部が極端に少なかったりするものが見られます。寺院の周辺では寺院からの見え方に配慮することが求められます。

<寺町の佇まいと調和しない意匠の建物>

- 寺院の周辺に現代的な意匠の建物が建てられている箇所が見られます。歴史ある佇まいを感じさせる寺院の集積による特徴的な雰囲気と調和するよう意匠等の工夫が求められます。

<景観要素として十分に活かされていない>

- 幹線道路沿いにある寺院は、山門の両脇に高層建物等が建ち並んでいる状況が多く見られます。そのため通りからの視認性が低く、寺院の存在が十分に認識されない場合もあるため、景観資源として十分に活かすような工夫が求められます。

賑わいのある商店街

住民の日常生活に密着したサービスを提供している商店が連なる商店街では、生活感があり賑わいのある景観が見られます。

<地域に即した商店街の形成>

区内には多くの商店街があり、景観も様々です。中には歴史ある建築物が残され、活用されているものなど見られます。



生活用品店が並ぶ地蔵通り商店街
(関口)



木造3階建ての建物を利用した飲食店(はん亭・根津)

<賑わいの演出>

インターロッキングブロックなどの舗装整備や照明器具、装飾の統一などにより、商店街の賑わいを演出しているところも見られます。



フラッグの統一
(白山下商店会)



舗装整備された商店街
(柳町仲通り商店会)

景観形成上の課題

<賑わいの連続性が断たれた商店街>

- 商店街の一角にマンション等が立地する場合は、植栽やオープンスペースのない閉鎖的な外構によって、賑わいやまち並みの連続性が損なわないよう配慮が求められます。

<看板のデザイン等>

- 無造作に設置された、けばけばしいデザインの上り旗や多すぎる看板、フラッグなどにより景観を阻害することのないよう配慮、工夫する必要があります。

面的に整備された市街地

本郷、湯島、本駒込、教育の森公園周辺などは、戦災復興や震災復興土地区画整理事業により整備された街区構成を基本としたまち並みが形成されています。

<整った道路・街区構成>

見通しが良い通りが多く、また、計画的に整備された大規模公園や施設があり、秩序だった緑豊かな景観が形成されています。

教育の森周辺地域では、公園や学校などの大規模敷地も多く、道路沿いの植栽やアイストッブとなっている公園の樹木等により、緑が連続する通り景観が形成されています。



見通しの良い通りと学生会館敷地の植栽（教育の森公園周辺）



見通しの良い通りと学校敷地の植栽（教育の森公園周辺）

<低中層建築物を主体としたまち並み景観>

地区外周部（幹線道路沿い）は高層建物が多いが、地区内は全体的に低中層（2～5階程度）の建物が多く、比較的落ち着いたまち並みが形成されています。



中層建築物が建ち並ぶまち並み
（左：本郷、右：教育の森公園周辺）

景観形成上の課題

<通りに対して閉鎖的な建物の外壁や外構部>

- 地区内の敷地規模は概して大きくないため、建物は敷地いっぱい建てられるケースが多く公園の向かいに開口部の少ない建物壁面が連続していたり、配管や室外機が設置されている壁面が露出していたりする場合には、景観への配慮が求められます。

<多様な用途・意匠の建物が混在したまち並み>

- 事務所ビルや中層の集合住宅、低層の戸建て住宅など、多様な用途や意匠の建物が混在して建てられています。そのため、基盤が整備された市街地であるものの、必ずしも建物の意匠や色彩などに統一感のあるまち並みが形成されていない状況が見られます。

(4) 骨格

都市の骨格をつくる軸

幹線道路や河川などは、都市の軸となり、骨格を形づくる主要な要素であるとともに、それらのつくりだす帯状の景観もまた、都市景観の軸となる重要な要素です。

軸となる景観を形成する幹線道路

区内には、区内外を連絡し、また、拠点相互を連絡する主要幹線道路や生活幹線道路があります。幹線道路は、都市の骨格を形成するとともに、軸となる景観をつくりだしています。

<見通しのきく景観>

幹線道路は幅員が広く、音羽通りのような一直線に伸びた道路や緩やかな曲線の道路が多いため、遠くまで見通しのきく景観が形成されています。

(意見交換会での意見を反映)



視線の先に護国寺が見える（音羽通り）

<ランドマークを望む眺望>

幹線道路の視界が開けた場所では、護国寺やスカイツリーなど、遠方のランドマークが見える場所があります。

<街路樹の景観>

幹線道路沿いには、区の木としても指定されているイチヨウを中心にハナミズキやトウカエデなど、多くの街路樹が植えられています。街路樹は緑のネットワークを形成するとともに、豊かな緑が生い茂ることによって潤いのある景観をつくりだしています。

(意見交換会での意見を反映)



街路樹が潤いを与えている（目白通り）

<沿道建物の景観>

区内の幹線道路沿道の用途地域は、路線式の商業地域又は近隣商業地域に指定されているため、商業・業務系の土地利用を中心にした商店街が見られるなど、賑わいのある景観を形成しています。

幹線道路沿道には中高層の建物が数多く建ち並ぶ景観が見られます。その一方で、本郷通りなど古くからある幹線道路の沿道では、昔ながらの佇まいを見せる建物が残り、新旧の建物が共存した特徴的な景観も見られます。

景観形成上の課題

<屋外広告物>

- ・幹線道路の沿道では、屋外広告物が数多く見られますが、華美になり過ぎず、まち並みの調和に配慮する工夫が求められます。

<幹線道路裏側の景観>

- ・中高層化が図られた沿道建物の裏側には低層住宅地が広がります。そうした場所では、中高層の建物が低層住宅地へ圧迫感を与えないような配慮が求められます。
- ・建物の側面や裏側に、配管などの設備や非常階段などがむき出しに設置されないような配慮が求められます。

<スカイラインが不揃いな沿道建物>

- ・幹線道路沿道の建物の壁面の位置や高さを周辺建物に調和させるなどの配慮が求められます。

<建築物側面の意匠や色彩>

- ・隣接する建築物の高さが異なる場合、高い方の建築物の側面が見えてしまうため、側面に配管や非常階段がむき出しで設置されている建築物は、雑然とした沿道景観を形成する要因のひとつになっていることから、配慮が求められます。
- ・幹線道路側に正面を向けた建築物が建ち並び中、開口部等がない無表情な側面を向けた建築物があることで、統一感を欠いた沿道景観となっている箇所もあることから、配慮が必要です。

神田川

神田川は、文京区で唯一水面を見ることが出来る河川であり、川沿いには遊歩道や並木が整備されています。これら水と緑は、都市空間の中で自然や潤いを感じることが出来る景観でと なっています。また曲線を描く川の流れは、緩やかな軸の景観を形成しています。

<自然を強く認識できる景観>

地形を感じさせる緩やかな曲線や、水面や岸辺の緑などにより、都市空間の中で自然を強く認識できる景観となっています。



神田川沿いの桜並木
(江戸川公園入口)



お茶の水橋から上流を見た
神田川の眺め

＜川沿いの緑＞

神田川沿いの要所には並木や量感のある豊かな緑がある。それらの緑と水がつくる空間は、都市の中で潤いを感じさせる景観となっています。



水面に映る岸の並木（江戸川橋）



お茶の水橋から下流を見た
神田川の眺め

景観形成上の課題

＜薄暗い印象の河川景観＞

- 神田川沿いの一部の区間では、緑が少なく南側に平行して高速道路が建造されていたり、川に背を向けて建物が建てられている箇所があります。都市の軸となる景観として、薄暗い印象にならないような工夫が必要です。

＜親水性に欠ける護岸＞

- 緑も少なく、コンクリートの護岸が連続して切り立っている場所では、親水性に欠ける景観となっています。特に、平行して高速道路が走る水道二丁目から後楽二丁目にかけては、川岸を歩けるような遊歩道もなく、川の存在を身近に感じられない景観となっています。潤いを感じられ、川の存在を身近に感じられるような工夫が必要です。

（５）拠点

特徴的なまちかど

拠点となる地区では、ジェットコースターや観覧車などの施設が見られる場所もあり、まち並みに大きなアクセントを与えています。また区内の各所にはポケットパーク等の小さなスポットやまち中に設置されたモニュメントなども、個性的なまちかどの景観を演出しています。

＜個性的なまちかど＞

特徴的な施設や市街地の中に設置されたオブジェ等のアート作品が、個性的なまちかどの景観を演出しています。



遊園地の施設と
地下鉄丸ノ内線（本郷）



地下鉄飯田橋駅入口の
オブジェ（後楽）

<都市の中の憩い空間>

まち並みの一角に設置されたオープンカフェや小さなスペースを利用して整備されたポケットパークなどは、都市の中の潤いスポットとなっています。



通りと一体となった
オープンカフェ
(水道橋駅周辺)



歩道のスペースを利用した
ポケットパーク
(春日町交差点)

景観形成上の課題

<魅力を発揮しきれていないまちかど>

- ・石碑などが立ち、歴史の刻まれたまちかどや憩いの空間と成り得るまちかどであっても、人混み等に埋もれている箇所が見られます。その魅力が十分に発揮できるような配慮が求められます。

拠点

区民の活動や生活の中心となる拠点は、多くの人々が訪れ交流する場所であり、文京区の顔としての景観整備が求められます。

<地域拠点>

文京シビックセンター周辺、根津駅・千駄木駅周辺、茗荷谷駅・教育の森公園周辺の地域拠点には、商業施設や事業所、さらにレジャー施設があるなど、人々が集まり、賑わいのある拠点らしい景観が見られます。



シビックセンター周辺



根津駅周辺

<生活拠点>

山の手地域東部の白山駅周辺と、山の手地域西部の江戸川橋駅周辺の生活拠点では、商店街を中心とした活気あるまち並み景観が見られます。



江戸川橋駅周辺



白山駅周辺

景観形成上の課題

<シンボル性のない景観>

- ・根津駅や白山駅周辺では、地域拠点として文京区の顔となるような景観づくりが求められます。

<ゆとりを感じにくい地下鉄駅周辺>

- ・地域拠点や生活拠点周辺は、地下鉄駅が核となっています。地下鉄の出入口付近で滞留できるオープンスペースを創出する等、ゆとりを感じさせる景観づくりが求められます。

(6) 緑

大規模な緑のまとめり

区内には、小石川後樂園や六義園など江戸時代の大名庭園が残されているほか、大学や公園、寺社等の境内など、広い敷地で緑を有した場所では、大規模な緑のまとめりによって潤いある景観を形成しています。

<斜面地緑や緑のスカイライン>

斜面地にある豊かな緑は、視覚的に立体感のある景観をつくりだしています。また、一部では連続した緑がつくりだす緑のスカイラインを見られる場所もあり、潤いを感じられます。



斜面の緑が連なり形成されたスカイライン（新江戸川公園）

<ランドマークとなる

緑のまとめり>

護国寺や東京大学などの大規模敷地は、ボリューム感のある緑が形成されており、歴史性とも相まって、緑のランドマークとなっています。



ボリューム感のあるまとまった緑
（左：護国寺、右：東京大学）

<自然が感じられる景観>

まとまった緑のある敷地では、空も広く、自然が強く感じられる景観が見られます。



池越しに広がる空（六義園）



遮るもののない広い視界
（目白台運動公園）

<緑視率の高い景観>

敷地内にあるまとまった緑が、塀越しに見えたり、透過性のある塀などにより敷地外からも緑を身近に感じたりすることができ、潤いのある緑視率の高い景観となっています。



煉瓦塀から歩道に溢れでる緑
(東京大学)



敷地内の緑も見通せる透過性のある塀
(国際仏教学大学院大学)

景観形成上の課題

<閉鎖的な大規模敷地の塀>

- 敷地境界に長大で単調なブロック塀等が設置される場合には、閉鎖的な印象を与えず、身近に緑が感じられるような工夫が求められます。

<植栽の乏しい周辺建物>

- 公園や庭園など、大規模な緑のまとまりの周辺では、接道部に植栽を設けるなど、緑の連続性が分断されないように配慮することが求められます。

憩いの空間となる公園

区内には、住宅地の一角にある小さな公園や、サッカーやテニスの楽しめる大きな運動公園、平坦な公園や地形の特徴を生かした高低差のある公園があります。また、関東大震災の復興の際につくられた公園や大名庭園の名残を残す歴史的な公園など、多種多様な公園があります。

公園は、緑が多く季節の花が楽しめるなど、四季の移り変わりが感じられる場所であるとともに、区民の身近な憩いの空間となっています。

(意見交換会での意見を反映)

<親しみの持てる樹木や遊具>

区民等が日常的に利用する公園には、木陰をつくる樹木や遊具などがあり、また、そこで憩い、遊ぶ人々が織り成す親しみの持てる景観が広がっています。



木陰をつくる樹木と遊具
(左：久堅公園、右：西片公園)

<斜面を活かした景観>

斜面に立地する公園は、地形の変化に富んでおり、立体的で奥行き感のある景観を形成しています。



立体感のある斜面の緑
(左：清和公園、右：江戸川公園)

<公園からの眺望>

台地など高台の開けた場所からは、低地の建物や緑を見下ろすことができ、区内のまち並み景観を一望することができます。



斜面地に建つ住宅の屋根の連なりを一望
(小日向公園)

景観形成上の課題

<閉塞感や薄暗さを生む塀>

- 公園の立地や隣接する建物への配慮などから、外周を塀等で囲っている場合、塀の仕上げや木立との位置関係などが、凶らずも、閉塞感や薄暗さを生んでいる場合があることから、公園の景観に配慮することが求められます。

<植栽の乏しい周辺建物>

- 公園の周辺の敷地では、接道部に植栽を設けるなどにより、公園の緑との連続性を図る必要があります。

<配慮を欠いた周辺建物>

- 公園に隣接した建物等では、配管や室外機などを公園に向けて設置しているものが見られます。公園内から周辺を見渡した際の景観に配慮することが求められます。

(7) 活動

人の活動

区内では、「文の京ロード・サポート」や町会などによる美化活動をはじめ、地域資源のマップづくりや歴史的な建物の保全・活用の支援など、文京区の景観づくりに貢献する活動が、区民や地元企業、NPO等の手によって各所で行われています。

<区民等による公共空間の清潔な景観の維持・創出>

地域住民や民間企業、NPO等により、道路や公園の清掃活動が盛んに行われており、公共空間の清潔感のある景観が維持されています。



町会が行う公園の清掃活動
(須藤公園 景観活動賞受賞)

<敷地前面を利用した花等によるまち並みの演出>

樹木や鉢植え、草花などをしつらえることにより、通りに面したスペースを豊かに演出している住宅が見られます。こうした住民一人ひとりの小さな取組や工夫が、通りを歩く人にも安らぎを与え、生活感の感じられる生き生きとしたまち並みをつくりだしています。



敷地内の空いたスペースに草花を飾りまち並みを演出(湯島)

景観形成上の課題

<落書き>

- 塀等への落書きによって景観を損ねている場所があり、改善が求められます。